

2021 年度 前期

東北大学会計大学院アンケート実施報告書

Toboku University Accounting School

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

1. はじめに

東北大学会計大学院は2005年4月に国立大学法人では初めての会計専門職大学院として開設された。本会計大学院の目的は、グローバルな視野と高度な分析能力を持つ職業会計人を養成し、将来にわたりこのような人材を社会に提供し続けていくことである。本会計大学院での教育の理念は、会計分野の知識だけでなく、経済や経営、IT、法律といったこれからの社会で会計の専門家として活躍するために求められる知識と素養を修得することである。この理念を達成するため、私たちは、社会が職業会計人に求める能力を把握し、これを学生への教育へと反映し、同時に、現在行っている教育が学生の能力やニーズに見合っているかを常に確認しながら、より効果的な教育方法を模索していく必要があると考えている。このような理念に鑑み、私たちは、会計大学院における最善の教育方法・システムを求めていくためのひとつの手段として、毎 Semester 終了後にアンケートを実施している。過去のアンケートは、「アンケート実施報告書」として本会計大学院のウェブサイト で公開している。

私たちがこの報告書を公表する意図は、東北大学会計大学院への入学希望者や、学生の主要な就職先となる監査法人・会計事務所・企業・官庁の方々に、本会計大学院でどのような教育が行われているかを理解して頂きたいという点にある。この報告書の公開によって、本会計大学院の修了生が高い意欲をもって学習に取り組んでいることを示すことができると考えている。

また、私たちは、このアンケート実施報告書を在学生在が教員に対して発信したメッセージと捉えている。今後とも、私たちはアンケートを通じて改善すべき点を見出し、質の高い教育サービスを提供できるよう努力していきたいと考えている。2020年1月頃から続く COVID-19 の流行に伴い、引き続き今学期も多くの科目でオンライン講義形態での実施となった。状況の変化には柔軟に対応しながらも、本アンケートの結果を踏まえて、今後の会計大学院の授業がさらに良いものに改善されていくことを願っている。

2020年度からはビジネスアカウンティングコースを設置し、カリキュラムの体系も見直している。このような改善を継続し、その効果を確認するため、アンケートの結果を活かしたいと考えている。

2021年8月

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

¹ <http://www2.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/classeva.html>

2. 実施方法

本報告書の対象となるアンケートの種類と配布期間・対象者は以下に示す通りである。

「会計大学院の授業に関するアンケート」（巻末資料 1）

2021年7月15日（木）～8月4日（水）にメーリングリストや担当教員からのアナウンスを通じて Google Form の URL を配布。

「会計大学院の授業に関するアンケート」はプロジェクト調査・研究以外全ての科目を対象とし、学生は受講している講義ごとに回答を行っている。アンケートの回答は無記名とし、1学生につき各科目において1回限りとした。

本報告書では、「会計大学院の授業に関するアンケート」の結果を集計し、今semesterに開講された科目について、その教育内容・教育方法全般に関する分析を行い、その問題点を明らかにし、今後の対応を検討する。なお、本報告書ではアンケートにより得られたデータを可能な限り定量的に分析したいと考えている。

「会計大学院の授業に関するアンケート」における科目毎のアンケートの集計結果と自由記入欄の記載内容は、担当教員に原文を直接報告している。ワークショップ委員会では、各教員がこれを通じて次年度以降の講義内容の充実に資することと期待している。

3. 「会計大学院の授業に関するアンケート」に関する分析

3.1. アンケートの実施状況

「会計大学院の授業に関するアンケート」は、前述の通り、プロジェクト調査・研究以外全ての開講科目である25科目について実施された。アンケート実施科目と履修者・アンケート回収数をまとめると表1のようになる。今回のアンケートでは、述べ履修者数435名に対して244名から回答を得た。アンケートの回答率は56.1%である。オンラインでの任意回答として実施された直近2回の回答率（2020年度前期（61.8%）、2020年度後期（46.1%））や他専攻、他部局の動向を考慮すると、今回の回答率は低い水準ではなく、一定の水準を確保しているものと考えられる。

授業科目名	履修者数	回収数
財務会計1	47	29
財務会計3	11	6
簿記1	25	23
簿記3	9	6
公会計2	30	18
I F R S 2	4	2
管理会計2	29	11
原価計算1	36	17
原価計算3	15	5
監査1	39	19
監査3	13	5
事例研究（監査制度）	10	4
監査計画の編成法2	15	8
コーポレートファイナンス2	7	6
統計学1	5	2
金融行政1	21	13
企業法1	22	10
法人税法1	18	12
所得税法	9	6
企業開示制度と実務	6	5
事例研究（金融行政）	3	2
会計職業倫理	38	16
ビジネス・コミュニケーション1	14	12
ビジネス・コミュニケーション2	8	6
ワークショップ a	1	1
合計	435	244

表1：アンケート実施科目と回収数

3.2. アンケートに関する基本統計量

各設問の選択肢に付与された数字は、評価が好ましい回答ほど値が大きくなるよう設定されているため（設問1属性を除く）、この数値に基づく回答の平均値、中央値、最頻値の算出を行った。あわせて、参考のため標準偏差も計算した。その結果は以下の通りである。なお、具体的なアンケートの内容については資料2を参照されたい。

項目\質問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	試験対策	キャリア	資格
6	66	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	106	234	13	12	17	123	175	194	175	168	174	177	185	139	167	56
4	24	8	5	4	14	93	49	40	54	45	48	50	45	35	49	-
3	39	1	8	17	19	27	16	7	13	22	17	14	9	42	18	135
2	2	0	25	36	39	1	4	1	2	3	4	1	3	12	7	-
1	3	1	90	104	80	0	0	2	0	6	1	2	2	16	3	53
0	4	-	103	71	75	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	244	244	244	244	244	244	244	244	244	244	244	244	244	244	244	244
平均値	4.70	4.94	1.02	1.24	1.46	4.39	4.62	4.73	4.65	4.50	4.60	4.64	4.67	4.10	4.52	3.02
中央値	5	5	1	1	1	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	3
最頻値	5	5	0	1	1	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	3
標準偏差	1.26	0.33	1.30	1.26	1.48	0.69	0.68	0.61	0.62	0.89	0.73	0.69	0.68	1.23	0.85	1.34

表2：アンケートの基本統計量

表2を見ると、設問3（予習）、設問4（復習）、設問5（宿題）、設問16（資格）以外の設問では、平均値が概ね4以上であり、中央値や最頻値も最高評価の5である。この傾向は、過去数年のアンケート結果と大きな違いはなく、2020年度に引き続きオンライン講義が主体となった今学期の状況を踏まえても、講義に対する評価は良好であったといえる。

ただし、学生が授業の予習、復習、宿題にかかる時間はあまり多くない状態が何年も続いている。設問3（予習）、設問4（復習）、設問5（宿題）では回答した学生のうちの半数以上が選択肢0または1であり、科目別での毎回の講義の予習・復習・宿題にかかる時間は、それぞれ2時間以下であることがわかる。オンライン講義となった直近においても対面であった過年度と同様の傾向であり、継続的にこの課題の原因と対処する方法を検討する必要がある。なお、設問1（属性）にあるように公認会計士コースの学生が多く、設問14（試験対策）からわかるとおりに本学の講義は資格試験等と関連する内容も含むため、学生が別途取り組んでいる試験対策の学習とも重なる部分があることから、一概に学生の学習時間が不足しているとは解釈しにくい。とはいえ、会計大学院が提供する講義内容は試験対策に限らないことから、理解には一定の学習時間が必要と考えられる。

全体として、学生からの各講義に対する評価は高い水準にあるといえるものの、予習・復習・宿題にかかる時間を一定時間確保するように授業設計を工夫する必要があると考えられる。

3.3. 各設問間の相関

設問間の相関関係をみるために、表3を作成した。なお、設問1は回答者属性であり、相関係数の意味が乏しいため除外している。また、±0.50以上の相関係数については太字（色付き）にしている。設問16の資格については、より難易度の高い資格であるほど高いスコアとなるようになっている。

質問	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	試験対策	キャリア	資格
2 出席	1.00														
3 予習	0.04	1.00													
4 復習	0.04	0.71	1.00												
5 宿題	0.12	0.49	0.54	1.00											
6 理解	0.18	0.19	0.17	0.03	1.00										
7 難易度	0.05	0.06	0.15	0.06	0.53	1.00									
8 教員準備	0.09	0.08	0.18	0.01	0.32	0.54	1.00								
9 プレゼン	0.04	0.16	0.21	0.04	0.26	0.33	0.59	1.00							
10 教材	-0.01	0.16	0.22	0.05	0.28	0.47	0.59	0.52	1.00						
11 評価方法	0.04	0.12	0.20	0.00	0.33	0.52	0.63	0.57	0.69	1.00					
12 シラバス	0.07	0.14	0.24	0.09	0.35	0.59	0.75	0.61	0.57	0.69	1.00				
13 教員評価	0.04	0.13	0.18	0.02	0.31	0.54	0.78	0.68	0.68	0.75	0.80	1.00			
14 試験対策	0.06	0.08	0.30	0.07	0.21	0.36	0.29	0.24	0.38	0.34	0.38	0.32	1.00		
15 キャリア	0.06	0.22	0.30	0.15	0.32	0.57	0.53	0.50	0.60	0.63	0.67	0.65	0.55	1.00	
16 資格	-0.05	-0.10	-0.06	-0.07	0.10	0.13	0.12	-0.10	0.08	-0.02	0.00	-0.03	-0.11	-0.02	1.00

表3：設問間の相関関係

各設問は、概ね、学習時間に関する項目（設問3～5）、授業評価に関する項目（設問6～13）、学生の将来につながる授業かどうかに関する項目（設問14、15）に分けることができる。

まず、学生の学習時間に関する項目である予習（設問3）、復習（設問4）、宿題（設問5）に注目する。過年度と同様に、予習（設問3）と復習（設問4）の間では比較的高い正の相関が見られ、予習をよく行う学生は復習もよく行うことを示している。また、オンライン講義初年度であった2020年度は予習（設問3）または復習（設問4）と宿題（設問5）の相関がやや低下したが、今学期では再び高い傾向に戻っている。オンライン講義が2年目となり、各科目で設定される課題等が定着してきたことを表しているかもしれない。なお、学習時間（設問3～5）と授業評価（設問6～13）との相関は全体的に高くない。そのため、学習時間が短いことで難易度、理解水準、将来に対する有用性が低下しているような傾向は見られない。

次に、授業評価に関連した、理解（設問6）、授業の難易度（設問7）、教員の準備（設問8）、プレゼン（設問9）、教材（設問10）、評価方法（設問11）、シラバス（設問12）、教員評価（設問13）に着目する。これらは、それぞれ互いに高い正の相関関係がある。適切な難易度設計や評価方法、シラバスに始まる十分な準備やプレゼン・教材の設定、高い教員評価は、それぞれが密接に関係し、相乗的な効果を持つものと理解できる。

続いて、試験対策（設問14）とキャリア（設問15）を通じた将来の進路に関する有用性という特徴に着目する。全体として、試験対策（設問14）よりもキャリア（設問15）の方が、授業評価に関する回答（設問7～13）との関係が強い。本学では、学術研究の動向や会計実務に基づく知識、倫理や英語教育など、会計士試験と直結しなくとも長期的な視点で学生の将来に有用となる講義を開講している。将来のキャリアに役立つ授業であるほど授業評価も高いことから、そのような内容の重要性が高まっていることが読み取れる。

これらの傾向はおおむね、過去と同様である。上記の表については過去の報告書でも報告されている。過去の報告書については、会計大学院 WEB サイトを参照されたい (<http://www2.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/classeva.html>)。

3.4. 自由記入欄の意見について

「会計大学院の授業に関するアンケート」に設けられた自由記入欄については、科目担当教員による対応が必要であるので、寄せられた意見はこれまで通り担当教員へ報告し、考慮すべき意見については改善につながるよう依頼している。

4. 結び

2021年度前期における「会計大学院の授業に関するアンケート」の集計結果を踏まえると、本会計大学院の授業は、総合して良好な評価を得たと考えられる。本会計大学院が抱える課題については、例年同様に学生の学習時間の確保が挙げられる。各科目の毎回の講義の学習時間は、多くの学生が予習・復習・宿題のそれぞれに2時間以下ずつとなっている。個々の授業の設計は各教員の裁量に委ねるところであるが、学生の学習時間がきちんと確保されるように継続して工夫する必要があると考える。

最後に、アンケートに真摯に取り組んでいただいた学生各位に感謝を申し上げる。

資料1：2021年度前期「会計大学院の授業に関するアンケート」設問用紙

このアンケートは会計大学院の授業改善に学生の皆様の意見を反映するためのものであり、集計結果を報告書として公表致します。回答には東北大IDが必要となります。

授業担当者には誰がどのような回答したのかについての情報は一切公表せず、集計された結果のみを伝達します。ただし、自由記述については原則として原文のまま担当者に伝達します。

回答者属性

番号	質問	回答
1	あなたの専攻・コース(学年)について、該当するものを選んで下さい。	(6) 公認会計士コース(2年) (5) 公認会計士コース(1年) (4) 会計リサーチコース (3) ビジネスアカウンティングコース (2) 経済経営学専攻 (1) 経済学部 (0) その他

科目内容について

番号	質問	回答
2	この授業にどのくらい出席しましたか？(おおよその出席率で回答して下さい。)	(5) 90%以上 (4) 89-70% (3) 69-50% (2) 49-20% (1) 20%未満
3	この授業の予習に毎回どのくらいの時間を掛けましたか？(セメスターを通じた平均時間を回答して下さい。)	(5) 5時間以上 (4) 4-5時間 (3) 3-4時間 (2) 2-3時間 (1) 1-2時間 (0) 1時間未満
4	この授業の復習に毎回どのくらいの時間を掛けましたか？(宿題に掛けた時間を含めずに回答して下さい。)	(5) 5時間以上 (4) 4-5時間 (3) 3-4時間 (2) 2-3時間 (1) 1-2時間 (0) 1時間未満
5	この授業の宿題に毎回どのくらいの時間を掛けましたか？	(5) 5時間以上 (4) 4-5時間 (3) 3-4時間 (2) 2-3時間 (1) 1-2時間 (0) 1時間未満
6	この授業の内容をどの程度理解できたと思いますか？	(5) 理解できた (4) ほぼ理解できた (3) どちらともいえない (2) あまり理解できなかった (1) 理解できなかった
7	この授業の難易度は会計大学院の授業として適切だと思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である

番号	質問	回答
8	教員のこの授業に対する準備は十分でしたか？	(5) 十分だった (4) ほぼ十分だった (3) どちらともいえない (2) やや不十分だった (1) 不十分だった
9	教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良好でしたか？	(5) 十分だった (4) ほぼ十分だった (3) どちらともいえない (2) やや不十分だった (1) 不十分だった
10	テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である
11	この授業の成績評価の方法は適切であると思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である
12	この授業のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか？	(5) 役に立った (4) まあまあ役に立った (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たなかった (1) 役に立たなかった
13	総合的に見て、この授業における教員のパフォーマンスをどう評価しますか？	(5) 評価できる (4) まあまあ評価できる (3) どちらともいえない (2) あまり評価できない (1) 評価できない
14	この授業は、公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか？	(5) 役立つ (4) まあまあ役に立つ (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たない (1) 役に立たない
15	この授業は、将来のキャリアにおいて役立つと思いますか？	(5) 役立つ (4) まあまあ役に立つ (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たない (1) 役に立たない
16	あなたが既に合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい。	(5) 税理士会計科目 or 公認会計士短答式・論文式 or 日商簿記1級 (3) 日商簿記2級 (1) 上記について無し
17	自由記入欄（授業の感想，担当教員への要望，また本アンケートの各質問に関連した更なる意見等を自由に記入して下さい。）	(自由記述)

アンケートは以上です。御協力感謝致します。

資料2：2021年度前期「会計大学院の授業に関するアンケート」集計結果

	選択項目	人数	割合		選択項目	人数	割合
設問1 回答者属性	(6) 公認会計士コース(2年)	66	27.05%	設問9 教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良好でしたか。	(5) 十分	175	71.72%
	(5) 公認会計士コース(1年)	106	43.44%		(4) ほぼ十分	54	22.13%
	(4) 会計リサーチコース	24	9.84%		(3) どちらともいえない	13	5.33%
	(3) ビジネスアカウンティングコース	39	15.98%		(2) やや不十分	2	0.82%
	(2) 経済経営学専攻	2	0.82%		(1) 不十分	0	0.00%
	(1) 経済学部	3	1.23%		合計	244	100.00%
	(0) その他	4	1.64%		設問10 テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか。	(5) 適切	168
設問2 この授業にどのくらい出席しましたか。	合計	244	100.00%	(4) ほぼ適切	45	18.44%	
	(5) 90%以上	234	95.90%	(3) どちらともいえない	22	9.02%	
	(4) 89-70%	8	3.28%	(2) やや不適切	3	1.23%	
	(3) 69-50%	1	0.41%	(1) 不適切	6	2.46%	
	(2) 49-20%	0	0.00%	合計	244	100.00%	
設問3 この授業の予習に毎回どのくらいの時間を掛けましたか。	(1) 20%未満	1	0.41%	設問11 この授業の成績評価の方法は適切であると思いますか。	(5) 適切	174	71.31%
	合計	244	100.00%	(4) ほぼ適切	48	19.67%	
	(5) 5時間以上	13	5.33%	(3) どちらともいえない	17	6.97%	
	(4) 4-5時間	5	2.05%	(2) やや不適切	4	1.64%	
	(3) 3-4時間	8	3.28%	(1) 不適切	1	0.41%	
設問4 この授業の復習に毎回どのくらいの時間を掛けましたか。	(2) 2-3時間	25	10.25%	合計	244	100.00%	
	(1) 1-2時間	90	36.89%	設問12 この授業のシラバスは授業を理解する上で役に立ちましたか。	(5) 役に立った	177	72.54%
	(0) 1時間未満	103	42.21%	(4) まあま役に立った	50	20.49%	
	合計	244	100.00%	(3) どちらともいえない	14	5.74%	
	(5) 5時間以上	12	4.92%	(2) あまり役に立たなかった	1	0.41%	
設問5 この授業の宿題に毎回どのくらいの時間を掛けましたか。	(4) 4-5時間	4	1.64%	(1) 役に立たなかった	2	0.82%	
	(3) 3-4時間	17	6.97%	合計	244	100.00%	
	(2) 2-3時間	36	14.75%	設問13 総合的に見て、この授業における教員のパフォーマンスをどう評価しますか。	(5) 評価できる	185	75.82%
	(1) 1-2時間	104	42.62%	(4) まあま評価できる	45	18.44%	
	(0) 1時間未満	71	29.10%	(3) どちらともいえない	9	3.69%	
設問6 この授業の内容をどの程度理解できたと思いますか。	合計	244	100.00%	(2) あまり評価できない	3	1.23%	
	(5) 理解できた	123	50.41%	(1) 評価できない	2	0.82%	
	(4) ほぼ理解できた	93	38.11%	合計	244	100.00%	
	(3) どちらともいえない	27	11.07%	設問14 この授業は公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか。	(5) 役立つ	139	56.97%
	(2) あまり理解できなかった	1	0.41%	(4) まあま役に立つ	35	14.34%	
設問7 この授業の難易度は会計大学院の講義として適切だと思いますか。	(1) 理解できなかった	0	0.00%	(3) どちらともいえない	42	17.21%	
	合計	244	100.00%	(2) あまり役に立たない	12	4.92%	
	(5) 適切	175	71.72%	(1) 役に立たない	16	6.56%	
	(4) ほぼ適切	49	20.08%	合計	244	100.00%	
	(3) どちらともいえない	16	6.56%	設問15 この授業は、将来のキャリアにおいて役立つと思いますか。	(5) 役立つ	167	68.44%
設問8 教員のこの授業に対する準備は十分でしたか。	(2) あまり役に立たない	7	2.87%	(4) まあま役に立つ	49	20.08%	
	(1) 不十分	2	0.82%	(3) どちらともいえない	18	7.38%	
	合計	244	100.00%	(2) あまり役に立たない	7	2.87%	
	(5) 十分	194	79.51%	(1) 役に立たない	3	1.23%	
	(4) ほぼ十分	40	16.39%	合計	244	100.00%	
設問9 あなたが既に合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい。	(3) どちらともいえない	7	2.87%	(5) 税理士会計科目 or 公認会計士短答式・論文集 or 日商簿記1級	56	22.95%	
	(2) やや不十分	1	0.41%	(3) 日商簿記2級	135	55.33%	
	(1) 不十分	2	0.82%	(1) 上記についてなし	53	21.72%	
	合計	244	100.00%	合計	244	100.00%	
	(5) 十分	194	79.51%				

「注」設問の文言は本来のものと若干異なります。

2021 年度 東北大学会計大学院ワークショップ委員会

委員長
委員

尾関 規正
木村 史彦

会計大学院アンケート実施報告書 2021 年度前期

2021 年 8 月発行

編集・発行： 東北大学会計大学院ワークショップ委員会